

これまでの推進協議会の議事概要(抜粋)

第1回(平成25年5月31日)

市町村	第1回推進協議会(H25.5.31)における主な意見・課題
新潟市	<ul style="list-style-type: none"> ■信濃川下流域内の上・中・下流域が連携しながら、流域の安全度を高める治水対策が重要。 ■信濃川下流域の関係機関が一層連携し、効果的・効率的に地域防災力の向上を図る治水対策を推進することが必要不可欠。 ■基礎自治体の立場で言うと、さらに多くの方に知っていただく努力もやりながら、消防団員確保にも努めていきたい。
燕市	<ul style="list-style-type: none"> ■隣接の三条市と連携した内水対策を実施している地区もあり、今後も水害に強いまちづくりに取り組んでいきたい。 ■中ノ口川あるいは信濃川の下流域の容量を増やすための色々な取り組みを国、県でやっていただきたい。 ■今まで大きな災害に見舞われる経験というものが幸いにしてなかったということで、逆に色々なノウハウがまだ蓄積されておらず、住民の問題意識も他市町村に比べるとそれほど高くない。
田上町	<ul style="list-style-type: none"> ■信濃川下流域の関係機関が一層連携し、効果的・効率的に地域防災力の向上を図る治水対策を推進することが必要不可欠。 ■田んぼダムの活用とか、あるいは調整池の整備により、少しでも信濃川への流出の軽減になればと思っている。
見附市	<ul style="list-style-type: none"> ■実際に田んぼダムを効果的にするように農家の方にある程度主導で動いてもらう必要がある。 ■信濃川下流域の自治体等が発信する情報を共有できるような仕組み(プラットフォーム)の検討が必要。 ■災害時に活躍している消防団は海外でも評価が高いが、なり手がいない等の課題もあり、さらなるPRが必要。
加茂市	<ul style="list-style-type: none"> ■国、県におかれても、何とかもう一本、関屋分水路級の分水路をぜひ掘削する構想を作ることに着手していただきたい。 ■加茂川の下流部の河道掘削、下条川の堤防嵩上げを実施して頂きたい。 ■洪水ハザードマップ作成の手引き(改定版)が通達されたことなどもあり、洪水ハザードマップを作成していきたい。 ■水害時などにおける頼みの綱は消防団であり、それでも困難な場合は建設業であり、両者は非常に重要。 ■避難勧告は、住民の方々は避難していいのか、避難して悪いのかわからないので、やるなら避難指示がいいということを実感した。
三条市	<ul style="list-style-type: none"> ■水害においては水平避難だけが全てではないのではないかとことを申し上げてきた。 ■信濃川下流域内で整備中又は、既存の防災ステーションや資料館等が防災教育の拠点となって連携し、人と人の交流を通じて、信濃川下流域の防災意識向上に繋げていく必要がある。
弥彦村	<ul style="list-style-type: none"> ■多目的に使用できる災害避難施設を整備し、利活用している。
長岡市	<ul style="list-style-type: none"> ■自治会等の役員が毎年代わる場合もあるため、洪水時などの避難場所等に関して、定期的に説明することが重要。
新潟県土木部	<ul style="list-style-type: none"> ■信濃川下流域において、信濃川本川と連携しながら河川改修等を実施しており、今後も関係機関と連携しながら治水対策を進めていきたい。
新潟県農地部	<ul style="list-style-type: none"> ■信濃川下流域内にある農業用排水施設を活用し、地域防災力向上に向けて協力していきたい。
新潟県防災局	<ul style="list-style-type: none"> ■災害の予防及び発生時の対応に万全を期すよう、防災情報の関係機関への提供及び共有に関して、今後も緊密に取り組んでいきたい。
北陸地方整備局河川部	<ul style="list-style-type: none"> ■関係機関との連携を図りながら、治水対策を進めていきたい。 ■洪水ハザードマップ作成の手引きの改定に伴い、洪水ハザードマップ作成に関して、最大限の支援をしていきたい。
北陸農政局整備部	<ul style="list-style-type: none"> ■過去に整備した排水機場などが老朽化してきており、今後、これらの施設を順次、更新していきたい。

これまでの推進協議会の議事概要(抜粋)

第2回(平成26年3月13日)

市町村	第2回推進協議会(H26.2.13)における主な意見・課題
燕市	■国の社会資本整備総合交付金について補助率のかさあげについて検討して頂ければ事業がより進捗し、本川の被害軽減につながる。
加茂市	■大河津分水路の出口を広げることは絶対に必要である。 ■関屋分水路規模の分水路をもう一つ造るべきである。
五泉市	■早出川流域の砂防堰堤が一杯になっており、対策を考えていかななくてはならない。
新潟県土木部	■平成23年7月の新潟・福島豪雨を契機に相互の協力や施設管理者の連携が課題として顕在化してきたということで、各管理者から構成される内水氾濫対策検討会を立ち上げた。その中で、施設操作の連携による被害軽減に向けた検討を行った
新潟県防災局	■新潟県内は、人口あたりの消防団員数というのは相当高い割合ではあるが、長期的に団員数が減っているという状況であり、市町村と連携して対応を考えていく必要がある。
北陸農政局整備部	■田んぼダムの維持管理や運営などの地域活動の対する国からの恒常的な支援を受けられるようになったことが大きい。

これまでの推進協議会の議事概要(抜粋)

第3回(平成27年8月19日)

市町村	第3回推進協議会(H27.8.19)における主な意見・課題
新潟市	<ul style="list-style-type: none"> ■ 昨年は新潟地震から50年、7.13水害及び中越大震災から10年の節目の年であった。各種イベントやシンポジウムによって広く住民の防災に対する意識向上に向けた取組を進めてきた。今後も引き続き安心安全の土台作りに向けた取組を推進させていく。
長岡市	<ul style="list-style-type: none"> ■ ソフト事業を中心に取り組み、地域防災力強化支援事業で、自主防災会にアドバイザーを派遣しワークショップで防災マップや防災活動計画を作っている。 ■ 地区防災計画モデル事業に採択された。
三条市	<ul style="list-style-type: none"> ■ 防災ステーションに併設する水防学習館を昨年5月に整備した。今後は親水公園としての機能拡充を進めていく。 ■ 関係28機関385項目にわたるタイムラインを策定した。更なる改善をしていきたい。 ■ さらに、河川改修事業によるストック効果をアピールし、治水事業予算の確保につなげたい。
加茂市	<ul style="list-style-type: none"> ■ 堤防の嵩上げを、国や県に順次実施して頂き感謝。想定外力について、近年の雨の降り方を踏まえ、もっと上げるべきではないかと考える。 ■ 信濃川下流部にもう一つ分水路を整備するべきと考える。
見附市	<ul style="list-style-type: none"> ■ 土砂災害については土砂災害警戒情報の前段階として「前ぶれ情報」を活用して体制確保に活用している。 ■ タイムラインについて、発災前の48時間分を作成した。今後は信濃川下流域全域で作成するなど、さらにバージョンアップを図っていきたい。
燕市	<ul style="list-style-type: none"> ■ 災害に対する対応力や住民の防災意識をどう高めるかが課題である。新潟大学と提携した防災訓練の実施や自主防災の取組として防災リーダーの育成、防災施設を備えた公園の整備を実施している。
弥彦村	<ul style="list-style-type: none"> ■ 緊急告知FMラジオの導入と防災訓練が今年度実施予定である。 ■ 現施設の老朽化が進んでおり、想定外の外力にさらされたときに、甚大な被害をもたらす懸念のある施設があることから、県と協力して調査を実施している。
田上町	<ul style="list-style-type: none"> ■ 田上町の田んぼダムは約7割が完成している。自主防災組織の組織率が100%に達した。今後は防災リーダーの養成として、中越防災安全大学等に参加し、地域防災力向上に力を注いでいく。
新潟県防災局	<ul style="list-style-type: none"> ■ 水防法の改正について、洪水、内水、高潮等の浸水想定区域、水位周知の指定に向けて関係部局と連携して対応していく。
新潟県農地部	<ul style="list-style-type: none"> ■ ワーキングチームにおいて、大規模浸水時に各施設管理者の施設を稼働し、浸水被害を軽減する検討を行っている。 ■ 農業用排水機場についても最大限に協力していきたいが、運転経費については受益農家の負担があるということを考慮しながら検討していく。
新潟県土木部	<ul style="list-style-type: none"> ■ 中ノロ川については堤防強化、加茂川・下条川については堤防の嵩上げを行っている。 ■ 五十嵐川の災害復旧助成事業について、進捗率が90%程度となっており、一日も早く完成できるよう進めていく。
北陸農政局 整備部	<ul style="list-style-type: none"> ■ 平成17年度から順次、防災情報の共有化を図っており、平成25年度からは親松排水機場の情報も提供している。
新潟地方気象 台	<ul style="list-style-type: none"> ■ 雨の降り方が局地化、激甚化していることを新たなステージとして捉え、今後の防災気象情報や減災対策の検討について審議してきた。 ■ 防災気象情報の改善について、早ければ来年度の出水期から実施する。
北陸地方整備 局河川部	<ul style="list-style-type: none"> ■ 大河津分水の治水安全土をより高める事業を今年度着手。目標完成年度平成44年度、約1,200億円のビッグプロジェクトを計画的に事業を進めていく。 ■ 水防活動や災害復旧事業を円滑に実施するため、新潟市天野地区において新たな防災ステーション整備を今年度事業を着手する。